

『はなちゃんの はやあるきはやあるき』 絵本原画展

すっすっ さっさっ
すっすっ さっさっ

はなちゃんは はやあるきの練習を
がんばります。

「自分で 自分を 守るのですよ！」
という園長先生の言葉を信じて…

「だれも泣かず、だれもぐずらず、
それはそれは立派だったんですよ」

毎月の地道な避難訓練のおかげで、90名
の小さな命を守ることができた、岩手県の
野田村保育所のお話です。



『はなちゃんのはやあるきはやあるき』
宇部京子/作 菅野博子/絵 岩崎書店

●甘草屋敷子ども図書館●

▼山梨県甲州市塩山上於曾 1651-7

TEL0553-33-5926

OPEN9:30-16:30 (火曜日休館)

▼お問合せ

塩山図書館TEL0553-32-1505

2016 **1/6(水)~**
3/27(日)

～東日本大震災を忘れない～

90名の小さな命を守った、ある保育園のお話

◆2月21日(日) 10:30～ 甘草屋敷子ども図書館にて

《定員 30名。参加のお申し込みは塩山図書館まで》

岩手県久慈市在住の詩人：宇部京子さんが野田村保育所の職員さんから聞いた園児たちの姿……。震災から4年近くたっても心にずっと残っていたその姿を元にこの絵本を作られたそうです。子どもだけでなく大人の皆さんにも聞いてほしい「自分で自分の命をまもることの大切さ」を伝えるお話です。

著者プロフィール



さく 宇部京子 (うべ・きょうこ)

岩手県生まれ。久慈市在住。

日本絵本賞「手づくり絵本コンテスト」で奨励賞。

みえ94現代詩で国民文化祭実行委員会賞。

詩集『よいお天気の日』(教育出版センター)で厚生省中央児童福祉審議会推薦文化財、少年詩賞、日本童謡新人賞、岩手県選定図書。

《著書》

宇部京子詩集『リングリングがとまらない』(理論社)

『おいしいほしがき』(ひさかたチャイルド)

『おばあちゃんのどんぐりだんご』(サンチャイルド)

等

え 菅野博子 (かんの・ひろこ)

福島県いわき市生まれ。福島県いわき市生まれ。

都留文科大学を卒業し小学校教諭を6年間務める。

その後多摩美術大学二部、セツ・モードセミナーで学ぶ。

卒業しイラストレーターとなる。

第一回イラストレーションヨコハマコンペ大賞受賞。

《子ども向けの仕事》

『あんいあん』(サンケイリビング新聞社)

『どうとく』(光村図書出版)

『オリバー、世界を変える』(さ・え・ら書房)

『ふうせん』(くらしえほん) 等



被災前の野田村保育所です。この立派な園舎が
跡形もなく流されてしまいました。

絵本協力 岩手県野田村保育所

2016. 2. 21 甘草屋敷子ども図書館講演会

～東日本再震災を忘れない～
90名の小さな命を守った、ある保育園のお話



作者である宇部先生による絵本の読み聞かせからスタートした講演会。原画に囲まれて聞くお話はしみいるものがありました。

岩手県久慈市のご自宅で被災されたとのこと。幸いご自宅は無事だったようですが、近くの野田村の状況を知り、自宅にある食材や衣服など持てるだけ持って、毎日野田村に通ったそうです。

久慈市は、NHKドラマ「あまちゃん」のモデルにもなった地域でもあります。



支援に通う中で撮りだめた写真は、震災当時の様子をリアルに伝えてくれました。

モデルとなった野田村保育所は、高台に復旧し今も多くの子どもたちが通っているそうです。

復旧の速さの決め手は「震災5日目にして三陸鉄道が野田駅まで走ってくれたこと」とのことでした。



Q、なぜ野田村保育所では避難訓練を熱心に行っていたのでしょうか？

A、もともと力を入れていた活動だが、県から危険避難区域に指定されたことをきっかけに「15分で避難できるルート」を模索し、民家の庭先や山の中など、あちこちに許可を取って避難ルートを確立したそうです。また、昭和8年の津波を経験した村の長老の「津波は近々絶対来る」という言葉も強い後押しとなったとの事でした。

《東日本大震災に学ぶ》

《子ども達を災害から守るために私たちができる事》

- 出来事を後世に伝え続けていく事。
- その伝承を「適当でいいや〜」ではなく、
真剣に受け止めて考える事。



《作者の宇部京子さん》
ころ柿づくりを紹介した
写真絵本も手掛けていま
す！

《絵作者の菅野博子さん》
都留文科大学に通っていた
とのことでした！